

家出

本田 はじめ

平成十八年の年賀状に岐阜のSKさんが「私は家出をして今、知多半島に住んでいます。」とあった。電話が書いてあったので早速、連絡した。「一体どうしたの？」と訊くと「いや、なんとなくひとりになりたかったんだ。」という。

彼は定年後は、親の実家へ帰り、柿栽培、葡萄栽培で張切っていた。平成十一年には夫婦で東京へ来て、眺めのいいホテルに泊りたいというので浜松町の海岸「アジュール竹芝」に宿をとってあげたら、大変喜んでいた。平成十二年には、根尾谷の薄墨桜や揖斐川（いびかわ）河口の薩摩義士の碑などにも案内して貰った。宮崎の友人HDさんの世話で、双方夫婦連れで青島へ行ったこともあった。平成十七年には、弟たちと近江一周の旅をしてきたと言った。長男夫婦も同居、近所に娘夫婦もいて、JAの中国ツアーにも行ったとか、何不自由ない生活をしていると思っていた。そこへこの年賀状である。

そこではたと思い当った。私が福祉事務所長をしていた壮年時、民生委員さんが「悩みごと相談所」なるものを「老人いこいの家」というところで開いていたが、たまたま私が顔を出したら、丁度その日は、民生委員さんの来ない日なのに相談者が来ていたという。「所長さん！代りに聴いてあげてくださいよ。」と職員が頼むものだから、お相手をした。このKKさんという方「離婚をしたいんです。」と仰言る。「どうして離婚なんです。？」いろいろ訊いてみると、ご主人は健在で某一流会社の社長までなされた方。息子さん夫婦と孫も同居。お嫁さんも「お母様！お母様！」と大事にしてくれる。何も不自由はないんですとか。「えっ！それで離婚？」というと、「私は嫁に来てから、義父母と一緒に、一生懸命尽して、無事あの世へ見送りました。主人とは、主人が何か言いかけると、もう腰を浮かして何を言いたいか判りますから、言われる前に行動を始めてしまうくらいツアーカーなんですよ。」

でもね。ふと考えましてね。私って一体なんの為に生まれてきたんだろうとね。今まで七十年の人生って、人の為にばかり生きてきたわ。自分のために、自分で何かしようって思ったこともしたこともなかったのね。そう考えたら、夫も子供もみんな捨てて、一度自分で暮らして、自分でやりたいことをやって暮らしてみようかしらと思いついたんです。でも、この考えおかしいでしょうか。それでご相談に伺ったんです。」という話でした。「うーん。ちっともおかしくありませんよ。誰でも自分のシガラミを捨てて生きてみたいと思う時ってあるんです。若い人が故郷や親の家を捨てて、出て行く例は多いでしょ。年齢は関係ありませんよ。」「そうですか。それで安心しました。私って正常なんですわね。」「問題はどこへ行ってどう暮らすかですね。お医者さんなら、どこへ行っても受け入れられますが、KKさん何をして暮らしたいんです。どんな所へ行きたいんです？」「それですよ。住みた

い所は、景色のいい天国みたいな所。住んでいる人は皆、善人でいい人ばかりの所。でも私はなんにも人の為になる腕を持っていませんね。なんにも役に立つ人間じゃないですね。もう七十ですし。」「KKさん！今日から新しいところへ行ったつもりで、何か自分のこと始めてみたらどうです。稼ぐことはないのなら趣味でもいいんですよ。」「

こんな話をしているうちに、KKさんは離婚はしないことになった。そして、地元の俳句の会を紹介してあげた。

このKKさん、のちに区の俳句大会で優勝したのである。

こんなことがあったので、SKさんの話もなんとなく判るような気がした。絆（キズナ）にうんざりしていたのじゃないのかな。

SKさんの家出も「時」が結論を出してくれるだろうと思って、娘が静岡にいたので、一度知多半島まで訪ねてみるよと言っておいた。中部国際空港が出来て、静岡から直行バスが走っている。

キズナ（絆）で思い出したが、去年モンゴルに行ったとき、綱を馬の足にからませて歩けないようにしていたが、ここから「絆」という字が出来たという。つなぎ止める綱ではないのだ。しかし今では「つなぎ綱」に意味が変化してしまった。手かせ・足かせというホダシなのだ。

特別養護老人ホームに行っていると、ベットの老人の中には「ウチに帰りたい。」という人が幾人もいる。なかには、自分の家など無いのにウチに帰りたいという人がいる。「あなたのウチってどんなウチ？」と訊くと「ウチは農家でね、牛も飼ってたよ。」「子供の頃は、鳥小屋の卵をとってくるのは私の役目でね。」と、ウチというのは自分の生まれ育ったウチのことなんだ。人はいつかは行かねばならぬ道、行かねばならぬ国を思い浮かべている。臨死体験などというのもその一つではなからうか。

SKさんもどんなウチを思い浮かべているのかなと思っていたら、平成二十年の年賀状が来た。そして、「本田さん、ウチの息子は、マレーシアへ、婿さんが中国へ転勤になって、ウチに男手が無くなるようで、私の家出は、暫らく中止だ。」と書いてある。

そうか、SKさんは、ココロのウチがまだ出来ない内に、一度地球へ生還になったんだ。私が知多半島を訪れるのは、少し先へ延びた。

（平成二十年二月記）